

(1)



祝真鍋小学校創立140周年

平成29年11月24日、真鍋小学校体育館にて創立140周年記念式典が開催されました。

式典では、真鍋小学校140周年の歩みのスライド上映が行われ、記念アトラクションとして(1)4年生合唱「星の大地に」、「ふるさと」、(2)二中との合同合唱「つばさをください」、「未来へつなげ」が披露されました。式典後は、カルタあそびや救急体験などで地域の方と交流する「ふれあい祭」が開催されました。

真鍋小学校の沿革

明治10年6月 ・真鍋学校創設

西真鍋長松院で開校

15年4月 ・真鍋小学校と改称

40年1月 ・現在地に校舎新築

桜の苗木移植

大正8年2月 ・校章制定(なでしこ)



大正時代の運動会



昭和32年頃の正門

昭和22年4月

・学制改革で土浦市立真鍋小学校と改称

32年1月

・校庭の「真鍋の桜」県指定天然記念物に

11月

・創立80周年記念式典

52年6月

・校歌制定・同窓会発足

59年3月

・創立100周年記念式典

平成17年1月

・タイムカプセル「希望の塔」建立

20年3月

・新校舎完成
・「真鍋の桜」保存会設置



130周年記念式典(平成19年)



100周年記念：校歌の碑(昭和52年)



木造校舎(昭和38年)

46号

平成30年2/1
 二中地区市民委員会
 文化広報部発行
 電話 824-3588
 FAX 824-3553

第31回 二中地区文化祭

初めて文化祭アンケートを行いました

館長 浜田 衛

11月19日～26日まで、二中地区文化祭が開催されました。お天気にも恵まれ盛況のうちに無事終了できました。ご協力いただいた市民委員会や同好会、そして農産物提供の農家組合の皆さま、ありがとうございました。さて、アンケートをとりましたところ、180名の回答があり簡単に報告をしますと、年齢は67%が40代以上で、女性は63%でした。住まいは74%が二中地区です。来場者の78%が2人以上で来て、57%が車です。毎年来ているリピーターが40%という高い結果でした。

絵画習字小中学校作品展

市民委員会委員長賞

土浦第二中 2年 田代 愛子さん

フォークダンスのめぐり合い

さわかまがゼフォークダンス 仲平 四郎

現役を退いた後、別の豊かな人生を求めて音楽、料理、健康運動（太極拳・ヨガ・エアロビクス）、ダンス（社交ダンス・フラメンコ）等々、様々な社会活動に参画し相応の楽しみを体験して来ました。これらは基本的に個人の能力向上に精力を費やし、厳しいものもありました。今回「初めてのフォークダンス」講座を受けました。世界各国の何種類もの民族舞踊をすぐに踊れて、数人のグループとしての踊りは、和気あいあいと童心に帰ったような気持ちでやればやるほど楽しくなりました。男性が少ないのが通例だったようですが、中高年には打ってつけの運動量で、講座に参加した男性は全員同好会員になりました。この文化祭も講座体験のお蔭で、皆乗り乗りでした。未体験の方々は非体験を！ ラララ、ラララ♪



大正琴

琴友会 大山 春子

私たち琴友会は、二中地区公民館の講座より同好会として発足し30余年。会員は現在10名で、毎週木曜日の午後、公民館にて大正琴を楽しんでいます。

今年の文化祭では、「ラブユー東京」「無錫旅情」の2曲を演奏しました。音色の異なる4パートのアンサンブルでしたが、いかがでしたでしょうか。満足できる演奏を目標にしていますが、緊張もあり思うようにいかないものです。お互いに「まあまあ」の言葉がでた時は、「ホッ」としてうれしいものです。

これからも懐メロを大正琴にのせて、琴の楽しさを

お届けできればと思つていきます。新しいメンバー大歓迎です。お待ちしております。



文化祭への出展にあたって

面恋会 小島 利夫

私事だが、入会して7年を迎えるが未だ未熟者。「ひよっとこ」、「おかめ」等10面位を彫ったが、筆使いが下手なのか塗り作業が上手くいかずに塗り直しを繰り返し、文化祭間際にやっと仕上がる始末。下田先生はじめメンバーをやきもきさせる事毎回。しかし、面を彫っている時は作業に没頭し、それが災いして彫り過ぎて埋め戻す事もある。下田先生の指導よろしく、少人数ではあるが和気あいあいと楽しく時間が過ぎるのも忘れ、メンバー各自がマイペースで作業を進める。時には雑談で盛り上がり、時には作業に行きづまり、解決方法の意見交換と週1回の集いを有意義に過ごしている。作品の出来に關しては、認知症予防と楽しく余暇を過ごす事の次と考へていた方が良いのかな？



農産物提供者御芳名

※順不同 敬称略



◆木田余東

- | | |
|-------|-------|
| 松浦 春夫 | 松浦 将夫 |
| 渡部 芳浩 | 酒井 あい |
| 吉田 信茂 | 岩瀬あさ子 |
| 鳥羽 博司 | 松浦 裕之 |
| 今泉 重憲 | 羽成 勇 |
| 羽成 照昭 | 坂井 昇 |
| 鳥羽 久良 | 鈴木 正男 |
| 岩瀬 敏 | 殿岡 一男 |
- ◆木田余沖
- | | |
|-------|-------|
| 小野 俊之 | 高原 芳夫 |
| 遠藤 繁 | 天谷 俊一 |
| 小野 昭夫 | 黒田 茂夫 |
| 小野 一男 | 小野 丹生 |



いきいき茨城ゆめ国体マスコット「いぼラッキー」



真鍋小金管バンド



土浦第二中合唱



木田余地区資源保全会 (ハス天ぷら試食)



チャレンジクラブがお手伝い



一葉会 (絵手紙)



「木田余庵」のそばを堪能

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-----|------|-------|--------|-----|------|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|------|
| 岡田 寿夫 | 岡田 文男 | 岡田 孝雄 | 殿里西 | 菊田 明 | 菊田 忠良 | 菊田 保男 | 殿里東 | 間中 浄 | 東真鍋 | 軽部 信二 | 塚本 進 | 岩浪 信一 | 松岡 勇 | 羽方 文弥 | 西真鍋 | 小野 辰夫 | 山本 衛 | 久松 武治 | 山本 悦子 | 木田余中 | 小野 隆行 | 岡田 明 | 小野 忠一 | 小林 徹 | 久松 正人 | 木田余西 | 藤崎 孝一 | 小野 武司 | 高原 厚 |
| | 岡田 清 | 小沼 一雄 | | 吉田 進 | 菊田 泰弘 | 海老原 一郎 | | | | 須藤 恵一 | 柳澤 朝子 | 埴 一男 | 岩浪 英一 | | | 久松 良次 | 松浦 和義 | 山本 徹夫 | | | 野口 憲一 | 川島 一男 | 小野 俊雄 | 藤崎 武男 | | | 福田 隆通 | 小野 和子 | |

平成 29 年度市民委員会専門部事業報告

主な担当事項	実施月日	事業内容
福祉部 地域福祉への参加協力 ふれあいネットワークへの参加協力	8月30日	窓愛園の夏祭りへの参加協力（バーベキュー）
	12月16日	福祉映画鑑賞会「犬と歩けば チロリとタムラ」
	2月25日予定	子どもの貧困に関する講演会
	窓愛園のバーベキューはおいしく、楽しい時間でした。又、子ども達が皆元気に仲良く生活している様子が感じられ、我々参加者もパワーをもらいました。映画は、介護の一環として活躍するセラピードッグを題材にした内容で、とても感動的でした。 福祉部は、地域を愛し、地域に少しでも貢献できるようこれからも活動を続けていきます。	
安全部 交通安全思想の啓発 防災防犯活動の推進	毎月第2火曜日	防犯パトロール（真鍋地区）
	4月8日	「真鍋の桜を楽しむ集い」 参加協力
	3月15日予定	安全運転中央研修所（ひたちなか市）と水戸気象台見学
	防犯パトロールは2班に分かれて市民会館付近を巡回しています。「真鍋の桜を楽しむ集い」では、寒い中ではありましたが、遠方より桜を見に来た人達に感謝されて、私達も心温まることができました。救命講習会は、他団体とタイアップして実施することもあります。一人でも多くの人達に経験していただきたいと思えます。	
スポーツ健康部 各種スポーツレクリエーション活動 健康づくり 健康教室	8月6日	なでしこラジオ体操 参加協力
	10月8日	二中地区市民体育祭 参加協力
	11月8日	バスハイキング「鷺子山上（とりのこさんしょう）神社」
	2月25日予定	歩く会 参加協力
	鷺子山上神社は、茨城と栃木の県境が大鳥居の中央を通るとい珍しい神社です。宮司の説明を聞き、約1時間30分のハイキング。昼のお弁当、アユ、リンゴのサービス、そして温泉で楽しい一日を過ごすことができました。文化祭では、例年通り煮イカや甘酒の準備と販売。煮イカは大変人気があり、早めに完売となりました。 バスハイキングでは、これからも楽しい企画を用意していきます。	
環境部 ゴミの減量化資源化運動 環境美化 水質浄化運動 花いっぱい運動	8月23日	花いっぱい運動、グリーンカーテン運動
	11月11日	土浦市環境展 参加協力（環境マップの作成、出展）
	12月8日	ポイ捨て防止看板作成、設置
	花いっぱい運動は、今年度は優秀賞でした。公民館を訪れた人達に、綺麗だなと感じていただけたと思えます。土浦市環境展では、各町内の環境マップを作成・展示、またポイ捨て防止看板を作成・設置し、環境保全美化に取り組むと共に意識の高揚を図っております。地域の環境は私達一人ひとりの心掛けからです。自分達の手で環境を守りましょう。	
青少年育成部 非行防止キャンペーン 地域と学校との連携強化 親子教室 講演会 など	年10回	チャレンジクラブ事業
	8月27日	地域パトロール（鹿島神社例大祭時）
	チャレンジクラブの活動は、日常生活を離れた多岐に渡る楽しい出会いの連続です。子ども達は、様々な体験を通して自らにチャレンジし、学年を超えて共に生きる在り方を学んでいます。青少年育成部は、子ども達の安全を第一に温かく見守り、その成長に貢献すべく努めております。地域の子供達を地域が育てていく一助となりましたら幸いです。	
文化広報部 広報紙発行 文化講演会の開催 公民館講座への参加推進	9月1日	広報紙「やすらぎ45号」発行
	2月1日	広報紙「やすらぎ46号」発行
	今年度も無事に「やすらぎ」を発行することができました。地域での行事など記事にしたい事がありましたら、公民館事務所までお知らせください。「やすらぎ」45号から、「編集部コラム」の欄を設けました。広報部員がふと感じたことを綴っています。	

※上記以外に下記の事業に参加協力しました。

☆二中地区文化祭（11/19～26）

☆合同視察研修（1/30）

☆「土浦市まちづくり市民会議」（土浦市）

後期公民館講座



初めてのフォークダンス



アロマで作る「くすり箱」Ⅱ



自重筋トレエクササイズ



歌舞伎観劇への招待



「山ガール」～つくばグレートトラバース・秋編



家庭でできるシェフの味

過日、25名を引率して、国立劇場
に行ってきました。文楽は人形浄瑠
璃ともよばれ台詞やナレーションを
担当する「太夫」、太棹とよばれる「三
味線」、三人で操る「人形」で構成
されます。たかが人形劇だと思っ
な
かれ！ 太夫が語り始め、三味線が
べーん：と唸りを上げ、人形が動
き始めると、もはや別世界。今回上
演は、お姫様が嫉妬に狂って大蛇に
なる「日高川入相花王」と公金横領
事件を題材にした「傾城恋飛脚」の
二本立てで、圧巻でした。

館長 浜田 衛

「古典芸能を楽しむ文楽編」に参加して



不安解消～子育て世代のマナー講座

中區 二地

青年会紹介 ②

●前回より3回にわたり、二中地区の青年会を順次紹介しています。(原稿はH29・11月現在)

真鍋六丁目昭和会

会長 櫻井 克彦

我々、真鍋六丁目昭和会は会員数61名で活動しております。

主な活動内容は4月の「真鍋の桜を楽しむ集い」に始まり、土浦の夏を彩る「土浦キララ祭り」、真鍋地区最大のイベントである鹿島神社例大祭、皆が声を嗶らして熱くなる市民体育祭、そして、年末に開催する「鹿島神社を明るくする会」など様々な真鍋地区の行事毎に積極的に参加しています。また、町内活動に於いても、廃品回収や敬



老祝贺会のお手伝い、夜間防犯パトロールなどを実施し、安心・安全に暮らせるまちづくりの活動を行っています。

我が六丁目には町歌があります。その歌詞の一部に『住んで良かった六丁目』というフレーズがあります。今後も真鍋全体が住んで良かった町だと誰もが思い憧れをもって頂けるまちづくりを、他町内の皆様と協力し、更に親睦を深めながら真鍋地区全体を盛り上げていく活動をしていきたいと思えます。

東真鍋町弁天会

会長 中江 篤生

私たち弁天会は、東真鍋町に居住、もしくは出身者で構成され、8月の鹿島神社例大祭をはじめ、10月の市民体育祭等、東真鍋町を代表して各行事や奉仕活動に参加しています。

平均年齢は44・1才と少々高めではありますが、ここぞという時の動員力はとても高く、会員間の信頼感と結束が自慢の会と言えます。

会員の共通の認識は、町内の子どもたちが楽しく行事に参加出来る環境を整え、東真鍋町で沢山の思い出と共に成長していつてもらいたいという事にあります。

近年、町の各行事に対する子どもたちの参加が芳しくない事もあり、毎年の様に新しい試みを取り入れていきます。全てが成功するわけではありませんが、出来る事を一つ一つ積み上げて、誰の目にも魅力のある町



西真鍋町西真会

会長 大森 正樹

といえ「東真鍋町」と皆に答えても事を目標にがんばっています。

西真鍋町西真会は今年度会員39名で活動しており、春は「真鍋の桜を楽しむ集い」、夏は鹿島神社例大祭、秋には二中地区体育祭に参加し、年

末に「鹿島神社を明るくする会」等会員一丸となり年間を通じて地域の活性化に取り組んでいます。

中でも鹿島神社例大祭は西真鍋町のシンボルでもある伝統ある獅子舞を披露する一大行事でもある為、毎月獅子舞やお囃子の練習を実施しております。

また防犯や防災に関しても、毎週土曜日夜の防犯パトロールや毎年開催される防災訓練へも積極的に参加させて頂いております。

大きな行事も多く、いろいろと大変な事は多いですが、町内の方々に支えられ、助け合いや絆というものを改めて感じています。

今後も全員で力を合わせて青年会の活動を行って参りたいと思えます。



真鍋新町青年会

会長 瀬能 強

私たち真鍋新町青年会は20代から

50代のメンバーで活動をしておりま
す。人数はそんなに多くはないので
すが少数精鋭で団結し、育成会、町
内との結束力は強く、様々な活動
行っております。

子どもたちと一緒に廃品回収、8
月には「キララまつり」、鹿島神社
例大祭、市民体育祭などに参加しま
す。また今年、当町は9年に一度の
当番町という事で鹿島神社例大祭で
は大役を仰せつかり、会員一同一丸
となって無事に終了する事ができま
した。あと当番町としての大きな行
事は、12月31日の「鹿島神社を明
くする会」となりましたが、これか
らも青年会会員が地域の皆様、子ど
もたちと和をもって活動し、そして
協力してくださっている会員の皆様
に感謝して活動していきたいと思
います。



祝40年 真鍋連合青年会

真鍋連合青年会は真鍋地
区9町内の各青年会の集合
組織で、発足から40年を迎え
ました。この節目にあたり、
これまでの歩みをまとめ、本
年度の連合青年会長に、昨
年行われた記念事業につい
て寄稿いただきました。

真鍋連合青年会会長 瀬能 強

40周年の記念として、先輩方の助
言もあり、何か記念事業を開催すべく、
真鍋9町内の青年会で合議しましたと
ころ、子どもたちや住民の皆さまに楽
しんでもらえるイベントをとの声をい
ただきました。そこで、記念事業とし
て「参加型イベント」と「記念式典・
祝賀会」を開催いたしました。

参加型イベントとしては、10月29日
に『まなべ縁日』と称して、地元真鍋
のピアタウン様やJCOM様にもご協
力をいただき、キッズコーナーや焼き
そば、焼き鳥の屋台などを設けました。
当初は屋外での開催予定でしたが、台
風の接近により急遽室内に変更しまし
た。にもかかわらず、本当にたくさん
の皆様にご来場をいただきました。

記念式典としては、12月3日にマ
ロウド筑波にて、ご来賓の皆さまにご
臨席を賜り、諸先輩方の表彰をはじめ、
多大なご縁をいただいている鹿島神社

へ記念品を謹呈いたしました。祝賀会
では、真鍋の歴史を振り返るVTRを
見ながら、懐かしい思いを寄せていた
だくことができました。

これまでの40年間の歴史は、途切れ
ることなく祭礼やイベントなどに積極
的に参加されたその時々メンバーが
作り上げてきたものです。この場をお
借りして、長い歴史の中でこの青年会
の活動に携われましたすべての皆さま
に感謝と御礼を申し上げますと共に、
本事業が大成功に終わりましたことを
ご報告させていただきます。



真鍋連合青年会40年の歩み

- 昭和50年 住居表示変更により、真鍋地区が現在の9町内に
- 51年 真鍋のまつり(鹿島神社例大祭の余興が十数年ぶりに復活(この年は3町内参加、翌年から全9町内参加)
- 53年 真鍋連合青年会発足
- 55年 鹿島神社を明るくする会を初開催
- 平成20年 設立30周年記念交流会を開催
- 22年 規約を制定(翌年施行)

平成23年 東日本大震災により鹿島神社被災(灯籠倒壊、屋根瓦落下等)

片付け支援や、被災地のための募金活動を実施

29年 設立40周年記念事業・式典の実施(本文参照)

◎本年表は、以下の資料等を参考にやすらぎ編集部が作成しました

- 「真鍋一丁目青年会・真和会二十周年記念誌」(平成9年 真鍋一丁目真和会設立二十周年記念事業実行委員会発行)
- 「鹿島神社 真鍋のまつり」(昭和55年〜61年 近藤修様所蔵資料)

新着図書紹介

- キトラボックス 池澤 夏樹
- 2千7百の夏と冬 上・下 荻原 浩
- 天上の葦 上・下 太田 愛
- 最後の秘境東京藝大天才たちのカオスな日常 二宮 敦人
- かがみの孤城 辻村 深月
- デンジャラス 桐野 夏生
- 月の満ち欠け 佐藤 正午
- あとは野となれ大和撫子 宮内 悠介
- 帰郷 浅田 次郎
- 明治乙女物語 滝沢 志郎
- 球道恋恋 木内 昇
- みかづき 森 絵都
- 敵の名は宮本武蔵 木下 昌輝
- 「字」を変えると 人生はうまくいく! 小山田香代

「まぼろしの木田余城」から 出土した「和鏡」

文化広報部 福田 隆通

木田余城跡地で今あるのは信太範宗の墓(地図②)のみである。木田

余城は戦国時代からの戦や近代化と共に時代の遍歴を経て、城はもちろん土塁や濠といった城の形跡まで早くに失われてしまった。城がどのくらい大ききで、どのような形をしていたかなど残念ながらよく分からない(地図③)。また城に伴う出土品もほとんど残されていない。いわば「まぼろしの城」である。「まぼろしの城」ではあるが木田余城が戦国時代を中心とした歴史の舞台に登場していたことはいろいろな歴史的文獻にも記載されている。そのような木田余城跡地から「和鏡」が出土された。

発見時の状況を藤崎一男さん(木田余町在住)にお伺いしますと、発見されたのは昭和55年頃(常磐線電留基地工事2年前)で、鏡は耕作中に水田地下約60cmの砂の中に食い込んだ状態で発見されたとの事(地図①)。発見時はピカピカの状態で、見つけたときはミルク缶の蓋かと思ったが、裏を見たら模様があったので鏡だと分かったそうである。地

元の歴史に興味・関心をもって藤崎さんと出会ったからこそ現在に蘇った「和鏡」と言えよう。

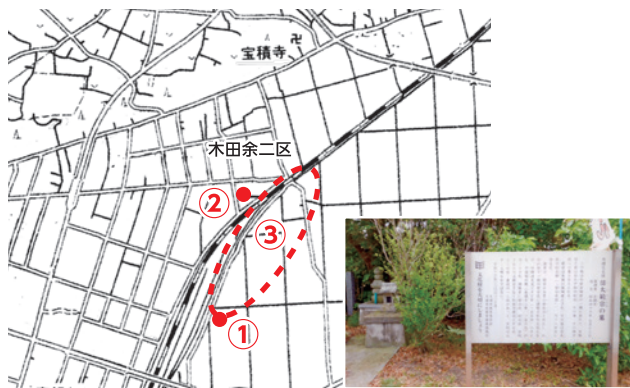
木田余城跡地の蓮田には今でも歴史的に価値ある貴重な資料が眠っている。今後もその資料が木田余城跡地から新たに発見されれば、本当の木田余城の姿が見えてくるかもしれない。特に蓮田を耕作されている方、これを機会に何か気になる物が出てきましたら、安土桃山期〜江戸時代に、歴史的ロマンに、思いを寄せて頂ければと思います。

また、宝積寺(木田余町)にも江戸時代前期の「和鏡」(市指定文化財)が保管されている。小田城主宗知(5代城主)によって現在の東台五丁目に建立された宝積寺(1306年)には木田余城が落城(1578年)した後、木田余城跡が跡かたもなく消えることを心配した土浦城主「朽



和鏡：土浦市指定文化財
年代 16世紀後半〜江戸中期
直径 11.5 cm 厚さ 0.28 cm
松樹図柄鏡 写真は裏面
「天下」の文字が記されている。
*宝積寺の和鏡にも「天下」の文字が記されている。

木氏」によって江戸時代に旧本丸(旧木田余二区常磐線南側)に移され、明治になって常磐線の蒸気機関車からの飛び火によって焼け、現在地に移転された。その歴史に重みある宝積寺で「和鏡」が身近に拝見できる。興味・関心ある方は「上高津貝塚ふるさと歴史の広場」で「和鏡」を実見したり、宝積寺の飯山住職さんや発見者の藤崎さんに一度お話を伺ったりして「まぼろしの木田余城」の姿を垣間見ても如何でしょう。



① 和鏡出土の場所 ② 信太範宗の墓の場所
③ 木田余城跡地(推測される場所)：破線
写真：信太範宗の墓、説明板

〈参考資料〉

- ・上高津貝塚ふるさと歴史の広場
年報第15号(2008(平成20年度))
・広報 ちゅうら平成25年5月上旬号

編集部コラム

今どきの〇〇は…

年寄りによく「今時の若者は」と苦言を呈しますが、最近はどうも事情が異なるようです。

以下、若者(20歳)の新聞投稿。

「最近、高齢者の常識のなさにあきれてしまうことがある。私は電車通学しているが、整列乗車しない、並んでいる横から平気で割り込んで乗り、座席をとる。荷物を置き占領する。(中略) スーパーでレジのバイトをしているが、カートからかごを下ろせという命令口調に始まり、後ろに大勢の客が並んでいるのに品物を袋に入れるとか返品してくれとか自分勝手な要求が多い。高齢者は『今時の若者は』と言いが、こちらから言わせれば『今時の高齢者は』と思うこともある。」(毎日新聞朝刊2017年12月4日)

投稿者の言い分にも一理あります。若者を良くも悪くも育てるのは大人です。若者の行動は大人を写すカガミ。『今どきの若者は』と批判するのではなく、『今時の若者にしては』と称賛できるように『今時の立派な大人(高齢者)』の行動が求められている時代なのではないでしょうか。

